

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡一太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-34213046

一口メモ

▼赤いガード
昨春秋、姉妹滝近くの探
勝路のガードが修繕され
た。これまでたびたび壊

され、応急処置で十年以
上のいでのいた。
急斜面を冷風が吹き降
りて石が転がり落ち、雪

崩も起き易い場所の証と
も言える。赤く塗られたガ
ードは、「危険」を知らせる
シグナルである。

「自然や歴史 物語を組み上げたい」



本宮炎理事長

今年、熊南峰と齋藤露翠
が出会って百年。二人が多
くの人を巻き込み、奇跡的
な名勝指定へつながった。
今年、自然や歴史を多
様な角度から見る感覚や正
確な知識を基礎にして、物
語を組み上げたい。立ち止
る年にしたい。

開峡百年を迎えた昨
年、これからの三段峡の姿
を三段峡憲章に掲げ、「体験
と学びの場」としての新し
い視点を提起できた。

今年、自然や歴史を多
力をもつ多くの自然資源の魅
力をもつ多くの自然資源の魅
力をもつ多くの自然資源の魅
力をもつ多くの自然資源の魅

インタープリテーション人材育成支援事業 集合研修への参加決まる

環境省が募集する人材育
成支援事業の対象候補地に
安芸太田町が選ばれ、栃木
県で開かれる集合研修への
参加が、十二月二十五日に

けんがチームを組んで参加
する。基礎研修を受け、三段
峡を拠点にした行動計画を
作成する。研修後、最終選考
に残った五地域へアドバイ
ザーが派遣される。本宮宏
美事務局長は「行政と一緒
に取り組む支援事業は技術
の習得以上に意義がある」
と意気込んでいる。

★インタープリテーション

自然、文化、歴史など目に
見えない部分や背景を、体
験や教材を通じて分かりや
すく伝える技術。人材育成
支援事業は、自然資源を活
用して活性化に取り組む地
域を対象に、持続可能な仕
組みの構築を担うキーマン
の育成を目指す。

2018年 キーワードは「調べる・伝える・出会い」 構想の具体化・事業化へ一歩

開峡100周年を機に産声を上げた「NPO法人三段峡一太田川流域研究会」(略称:さんけん)は2年目を迎え、議論してきた構想を具体化、事業化するスタート台に立った。「調べる」「伝える」「出会い」をキーワードに着実な一歩を踏み出す。

2018年の主な事業計画

- 歩き、聴き、調べる活動
「歩く会」「聴く会」を継続し、専門家を招いた植生調査や保全活動のための調査を進める。三段峡の魅力を知り、景勝をより身近に鑑賞できる探勝路からの小さな補助路を調査し、整備する。
- 体験プログラムを作成
インタープリテーションを取り入れたツアーや体験プログラムを作成し、事業化する。「伝える」拠点となるビジターセンターの開設に向け、資料収集・調査に取り組む。
- 希少生物の調査・啓発
草原の貴重な自然環境が保全されている深入山の絶滅危惧動植物18種の調査と啓発活動に取り組む。三段峡内の希少種を調査する。



西村教授の視察に同行して峡内を調査する正木商工観光課主査(右)

行政と二人三脚

集合研修へは同町とさん

けんがチームを組んで参加する。基礎研修を受け、三段峡を拠点にした行動計画を作成する。研修後、最終選考に残った五地域へアドバイザーが派遣される。本宮宏美事務局長は「行政と一緒に取り組む支援事業は技術の習得以上に意義がある」と意気込んでいる。

南峰と歩く⑤

藤ヶ瀬(ふじがせ)

酌み交わす南峰と露翠 楓林館

葎ヶ原から猿飛・二段滝方向へ十分ほど横川川を遡ると、右手に「楓林館(ふうりんかん)跡」の解説板が立つ狭い平地に着く。左手をよく見ると、探勝路脇から草径が下に延びていて、少し離れた川辺へ降りられる。一帯を藤ヶ瀬と呼ぶ。

熊南峰が初入峡した一九一七年春、藤ヶ瀬の上流約四キロの横川集落へ、待望の小学校教諭が赴任した。のちに「横川の神様」と称された齋藤露翠である。

熊南峰が初入峡した一九一七年春、藤ヶ瀬の上流約四キロの横川集落へ、待望のた絶景の数々を有名にしよ

下流の対岸、樹々の上には「松懸ノ岳(まつかけのたき)」という岩壁が聳える。藤ヶ瀬の中心景と思えるが、

「松懸ノ岳(まつかけのたき)」という岩壁が聳える。藤ヶ瀬の中心景と思えるが、

「松懸ノ岳(まつかけのたき)」という岩壁が聳える。藤ヶ瀬の中心景と思えるが、

■ 出会い 意気投合

翌年六月、南峰は内黒峠

■ 峡内初の宿泊施設

楓林館(当初は松懸館)

は、二三年に横川の住民た

ちが建てた、峡内初の宿泊

施設である。露翠の説得に

よるとされているが、南峰

の勧めもあつたはずだ。営業は五〇年代後半まで続けられた。

二人は楓林館でたびたび、好きな酒を酌み交わしたと言う。川への草径は当時からあったのだろう。瀬音を聞き、断崖を仰いだに

の勧めもあつたはずだ。営業は五〇年代後半まで続けられた。

二人は楓林館でたびたび、好きな酒を酌み交わしたと言う。川への草径は当時からあったのだろう。瀬音を聞き、断崖を仰いだに

の勧めもあつたはずだ。営業は五〇年代後半まで続けられた。

二人は楓林館でたびたび、好きな酒を酌み交わしたと言う。川への草径は当時からあったのだろう。瀬音を聞き、断崖を仰いだに

の勧めもあつたはずだ。営業は五〇年代後半まで続けられた。

「さんけん」の羅針盤

白川勝信さん

この人



「ここが僕の暮らす芸北です」と、スカイツリーの画面を見せた。話は「同じ高さに芸北があります」へ、くると転換した。不思議な視点で発想する。

芸北高原の自然館の主任学芸員。博物館の役割は資料の収集、保管、研究、公開だと常々言う。芸北の町全体を博物館に見立てて生まれたのが「せどやま事業」。博物館の取り組みを地域づくりにつなげている。三段峡を野外博物館と位置付け、専門家の役目を果たす。さんけんの羅針盤的存在だ。(炎)